

下商物語

『そのあ』

校友会誌「千畳原」について

教諭 林 俊行

現在、卒業前に発行される本校の年度ごとの出来事などをまとめて記録している千畳原は、創刊から昭和四十一年まで校友会(部活動)の文芸部が編集・発行を担当していました。その後、先生方中心となって国語科から教務部そして現在の総務部と担当部署が代わりながらも一年間の本校での実に様々な記録を伝えながら現在に至ります。数多くの高校がある中で、明治三五年から約一〇〇年もの間にこのような学校の編集物を継続して取り組んでいるところは少ないと思います。各学校で創立一〇〇年記念誌を編集される時、資料収集が非常に大変で相当な苦勞をされることのお話を伺いますが、本校では、図書館(万古館)で創刊当時か

らの学校編集物(千畳原・学校要覧・学校新聞・創立記念誌など)を大切に保存されているので非常に助かります。事実、平成一六年に創立二〇〇年記念誌編集を行った際にも比較的短い時間で編集・発行することができ、改めてその有り難さを感じました。

ところで、明治三五年二月二〇日の創刊号から(残念ながら創刊号から第九号までは、保存資料が本校には残っていません)現在までの編集内容を簡単に紹介してみますと、第百号(昭和三五年)までは年間の発行は複数字のペース(各号およそ百頁前後で、それ以降は各年度の卒業前に発行)一五〇から二百頁前後)されてきています。当初は、文芸部の生徒中心

ではありましたが、なかなかの内容で編集がなされており当時のレベルの高さを伺うことができます。校報・調査報告・短歌・俳句・随筆・講演記録・卒業生だよりなどの盛り沢山の内容で当時の出来事を詳しく伺い知ることができました。今は現在の形式となったのが国語科中心での編集となりました昭和四〇年代頃となります。現在に至るまで(第一五七号に、特別号として創立二五・三〇・五〇・六五・七〇・八〇・九〇・一〇〇・一一〇・一二〇周年記念号や発行一〇〇・一五〇号記念号などは、かなり力を入れて編集作業をされておられるようです。また、過去には四回もの別冊の発行がありました。

残念ながら古く貴重な資料は生徒のみならず、自由に閲覧することは難しいのですが、当時の先輩方が本校でどのような学生時代を過ごされたかのような考え方を持っておられたかなど機会があれば先生立会いのもとで一読されることを勧めます。

参考までに、昭和三五年五月から発行された「下商新聞」も当初は新聞部員の手によって編集・発行収入源は広告や販売によっていたされており、こちらはまた違った味わいがあった当時の様子を伺い知ることのできる貴重な資料です。詳しいことは、別に紹介したいと思いますが、創刊号の広告はなく当時の下関市長さんや市議会さらには商工会議所の会長さんなどからも協力を得ていると



「校友会誌」を復刊し、「千畳原」と改称して発行をはじめた文芸部員たち(昭和23年度)

文 芸 部



「千畳原」の発行はその後も順調にすすめられ、昭和59年3月には第133号を刊行した。その間昭和42年の117号からは編集が委員会制となって、文芸部を離れている。

ころからも周囲の期待が大きかったようです。こちらはB4サイズの縮小保存版として、平成一一年の創刊五〇周年・三〇〇号記念として万古館に保存して生徒のみならず自由に閲覧できるようにしていますのでどうぞ自由に読んでみてください。下商に関する意外な事実を知ることのできる資料になると思いますよ。生徒の皆さんの中でご家族の方が本校出身であればひよっとして父さん・母さんの学生時代の文章などが載っているかも知れません。